

参 考 資 料
教育民生常任委員会
教 育 総 務 課
令和 7 年 3 月 5 日

学校整備基本構想・基本計画 策定支援業務委託の進捗報告



葉山町教育委員会教育総務課
Board of Education General Affairs Division

基本構想・基本計画策定のねらい

VUCA、Shrinkの時代であっても、
最適な学びの環境を整えるため、
問題、課題、解決策を整理し、
物価上昇や人口減少等の
急速な社会の変化に対応できる
基本計画の策定を目指す。

VUCA

変動性 (Volatility)
不確実性 (Uncertainty)
複雑性 (Complexity)
曖昧性 (Ambiguity)

Shrink

「縮小」を意味し、人口・経済の縮小を指す

基本構想・基本計画におけるタスクの概要

TASK 01

整備方針

どんな新しい学校をつくることを目指すのか、方針を設定

- ・ワークショップ
- ・学校施設あり方検討委員会
- ・教員との意見交換

TASK 02

建設候補地

葉山中学校区・南郷中学校区それぞれで建設候補地を選定

- (候補地案)
- ・葉山小学校敷地
 - ・長柄小学校敷地

TASK 03

児童生徒数の推計

第五次葉山町総合計画の将来人口を学校規模の前提条件としつつ、今後の出生数を注視

- ・中位と低位の児童生徒数の推移

TASK 04

教育内容の充実を前提とした検討

葉山だからできる教育内容（ソフト）と学校空間（ハード）を一体的かつ多様な関係者と検討

- ・STEAM教育に適した空間整備
- ・防災への備え
- ・環境への配慮
- ・図書室と公立図書館の共用

TASK 05

配置計画

敷地のどこに、どのような形の新校舎を配置するかを検討

- ・校庭とのバランス
- ・校舎出入の動線
- ・周辺環境への影響
- ・費用や工期など

TASK 06

平面計画

各階ごとの教室・空間等の配置を検討

- ・普通教室は上の階に
- ・地域住民との交流スペースは下の階に
- ・学校と地域でシェアできる特別教室等は中間の階に

TASK 07

整備パターン・整備費用

学校生活への影響をできる限り抑えつつ、工期の短縮、費用の抑制などを検討

- ・複数の整備パターンを比較検討

基本構想

基本計画

<学校整備のコンセプトの前提（基本構想P18）>

「楽校をつくろう！」

「楽校をつくろう！」は、ワクワクを原動力に、新しい学びの創造、学びの空間づくり、地域とともにつくる学び、学びを通じたコミュニティの形成といった葉山町Education Missionの実現に向けた合言葉です。

この合言葉は、令和5年11月に教育委員会が開催したイベント（ワークショップ）で、その日のテーマに掲げたものでしたが、そのとき会場で共有されたワクワクが、合言葉として定着するきっかけとなりました。

葉山町は、「楽校をつくろう！」を合言葉に、学びの変革に挑戦していきます。

<学校整備のコンセプトの4要素（基本構想P20,21）>

A まなぶ

B くらす

C あつまる

D まもる

A まなぶ

- 1) 自由でボーダレスな空間
 - ① 主体的・対話的で深い学びを自由に展開できる
 - ② 個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実できる
 - ③ ICT環境が整い、多様な学び方を提供できる
 - ④ 学びの変化へ柔軟に対応できる
- 2) 多様な選択肢が用意されたインクルーシブな空間
 - ① 多様な子どもたちが共に学ぶことができる
 - ② グラデーションのある支援を選択できる
- 3) つながり最大化する空間
 - ① 9年間の学びをつなぐ
 - ② 学校・教員同士をつなぐ
 - ③ 学校と地域をつなぐ

B くらす

- 1) 子ども・教職員にとって居心地のよい空間
 - ① 居心地の良い空間、過ごしやすい室内環境
 - ② 教職員のワークスペースとして使いやすく、居心地の良いものへ
 - ③ 学び・遊び・運動・休憩などをシームレスにつなぐ
 - ④ 豊かな自然環境を取り込む
 - ⑤ 木を活かした学校づくり
- 2) 安全・安心に過ごせる空間
 - ① 日常の事故を防ぐ設えがある
 - ② セキュリティが確保された配置計画
 - ③ ユニバーサルデザイン（バリアフリー、だれでもトイレ等）
- 3) 子どもの居場所空間
 - ① 放課後の居場所がある
 - ② 長期休業中や始業前の朝に居場所がある

C あつまる

- 1) 地域が共に子どもを育てる空間
 - ① 地域がいつでも学校に出入りでき、子どもたちに学びを提供できる
 - ② 地域が学校の運営に参画できる
 - ③ 学校から地域に出て学ぶ機会をつくれる
- 2) 生涯学習の拠点となる空間
 - ① 多世代がつながる学びが展開できる
 - ② リスキリング（学び直し）の場、学ぶこと・教えることを通して成長できる場
 - ③ シェアと共有による施設利用
- 3) まちづくりの核になる空間
 - ① 学びを通して人と人の交流が生まれる
 - ② 交流から共創が生まれる

D まもる

- 1) 地球環境を守る空間
 - ① ZEB（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）の校舎
 - ② 環境教育の教材となる
 - ③ 新築時に排出されるCO2の削減と校舎の環境性能向上を両立する
- 2) 維持管理しやすい空間
 - ① 時代を読み込んだ計画（構造、工法、発注方式、基本性能）
 - ② 熱源のベストミックス
 - ③ 公共施設マネジメントとしてイニシャルコストとランニングコストの最適化
- 3) 命を守る空間
 - ① 防災拠点としての機能の向上

TASK01 整備方針

Point3

➤ 多様な関係者との合意形成の場とその実施回数・参加者

	R6回数	参加者	子ども	教職員	議員	保護者	地域	有識者
楽校をつくろう！ワークショップ 学校施設の再整備という政策決定プロセスに、保護者・教員・子ども等の参画を求め、より多くの町民を、楽校をつくる当事者にしながら、基本構想・基本計画の土台となる想いを集める	3回	127名 傍聴者込み	○	○	○	○	○	○
学校施設あり方検討委員会 学校施設のあり方につき教育委員会の諮問に応じて審議し、その結果を答申し、又は意見を建議する	5回	—	—	○	—	○	○	○
教育民生常任委員会 議会への検討状況・進捗の報告	5回 予定含む	—	—	—	○	—	—	—
教員との意見交換会 (楽校をつくろう！ワクワクの会など) 学校の主な使い手である教職員と「これからの学びと空間」についての対話を通じて、子どもたちをまんやかにした新しい時代の学びとその空間について考える機会	3回 予定含む	62名	—	○	—	○	—	○

TASK01 整備方針

〈楽校をつくろう！ワークショップにおける検討経過〉

回数	日時	参加者	傍聴者	内容
第1回	令和6年 6月23日(日)	27名	14名	東京学芸大学金子嘉宏教授より、「共に築く未来のまちづくり：個々の才能と地域の連携」の講演後、参加者とともにワークショップを行った。
第2回	令和6年 8月18日(日)	28名	18名	千葉工業大学倉斗綾子教授と研究室との協働のもと、8月はディベート形式、10月はイラスト化のワークショップを行った。
第3回	令和6年10月12日(土)	21名	19名	



文部科学省CO-SHA Platformを通じてつながった2名の講師と開催



東京学芸大学
金子 嘉宏 教授



千葉工業大学
倉斗 綾子 教授



TASK01 整備方針

＜学校施設あり方検討委員会における検討経過＞

回数	日時	内容
第1回	令和6年 1月15日（月）	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 学校の再整備に向けて
第2回	令和6年 5月23日（木）	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 協議事項と検討のプロセスについて ➤ 学区アンケートの結果について ➤ 候補地選定の基準について ➤ 楽校をつくろう！ワークショップについて
第3回	令和6年 7月18日（木）	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 候補地の評価について ➤ 第1回楽校をつくろう！ワークショップについて ➤ 学校整備に向けたコンセプトの検討について ➤ 今後の協議事項
第4回	令和6年 9月 3日（火）	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 整備に係るコンセプトについて ➤ 学校整備基本構想・基本計画について
第5回	令和7年 3月25日（火）【予定】	未開催

学校施設あり方検討委員

名前	所属
出石 稔	関東学院大学法学部長
返町 和久	葉山町教育委員会 前教育長
野口 純久	神奈川県教育委員会 子ども教育支援課指導主事
加藤 清	町内会連合会 前会長
森岡 孝	葉山中学校長

名前	所属
長谷川 泰子	長柄小学校長
上田 美津子	葉山町PTA連絡協議会 前会長
外川 翔大	三浦半島地区教職員組合書記長
山浦 彩子	葉山町子ども・子育て会議委員 風の子保育園園長

TASK01 整備方針

＜教育民生常任委員会（議員懇談会）における検討経過＞

回数	日時	内容
第1回	令和5年12月4日（月）	▶ 学校の再整備に向けて
第2回	令和6年3月5日（火）	▶ 学校給食事業について
第3回	令和6年6月7日（金）	▶ 学校再整備に向けた検討状況の報告 ・今後の検討プロセス ・基本構想・計画策定支援業務委託プロポーザル結果 ・学区アンケート結果 ・第2回「楽校をつくろう！ワークショップ」 ・候補地選定の基準
第4回	令和6年9月26日（木）	▶ 学校再整備に向けた検討状況の報告 ・第2回楽校をつくろう！ワークショップ ・整備の方針
第5回	令和6年11月29日（金）	▶ 学校再整備に向けた検討状況の報告 ・学校整備基本構想（案）について

＜教員との意見交換会における検討経過＞

回数	日時	参加者	内容
第1回	令和6年12月3日（火）	10名	葉山小学校教員との意見交換会
第2回	令和7年1月22日（水）	52名	【楽校をつくろう！ワクワクの会】
第3回	令和7年3月13日（木）【予定】	－	東京学芸大学金子教授・千葉工業大学倉斗教授の講演後自由対話を実施

TASK02 建設候補地

Point4

<候補地評価結果（基本構想P16,17）>

➤ 葉山中学校区は葉山小学校

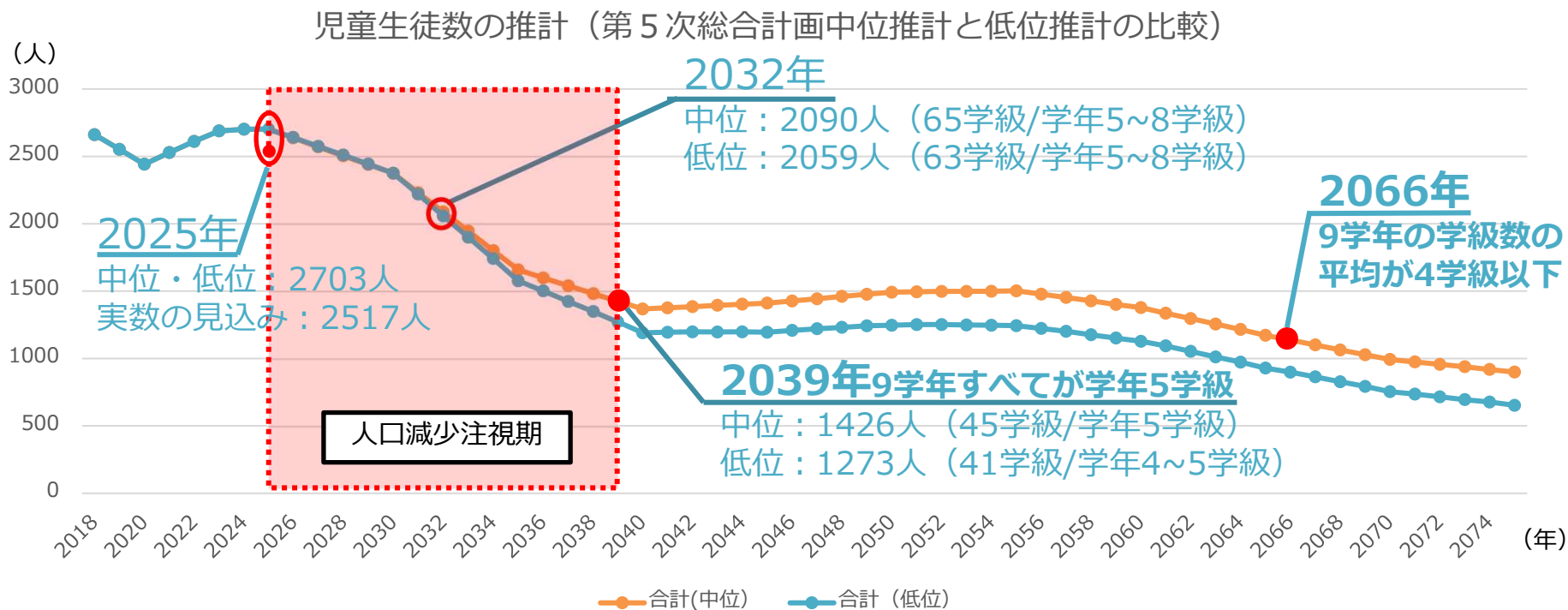
➤ 南郷中学校区は長柄小学校

	葉山中学校区		
	葉山小学校	一色小学校	葉山中学校
学 敷地平場面積 校 () 内は森林を含む総敷地面積	○ 約16,600㎡ (16,626.87㎡)	○ 約15,900㎡ (15,949.50㎡)	◎ 約24,150㎡ (65,687.98㎡)
施 中学校区域での立地	○ 葉山中学区域のほぼ中心	○ 葉山中学区域のほぼ中心	○ 葉山中学区域のほぼ中心
設 立地	◎ 平地	◎ 平地	○ 標高が高い
の 周辺環境	○ 公共施設+住宅街	○ 四周が住宅街	○ 山林
観 接道状況 点 (幅員・道路規制等)	○ 法42条1項1号道路に接道 幅員:11,84m ※敷地との間に高低差あり	△ 法42条1項1号、5号、2項道路に 接道 幅員:12.4m ※一部時間指定の一方通行	◎ 法42条1項1号道路に接道 幅員:4.6m
遠足等大型バスの出入り	○ 役場駐車場にてその他交通を避けて 乗り降り可能	△ 既存バス停付近に停車の必要あり バスのダイヤを意識する必要あり	◎ 敷地内での乗り降り可能
眺望	◎ 建物内から富士山・海・桜並木が 見える	△ 屋上から海が見える	◎ 建物内から海・山が見える
近隣住民への影響 工事中	○ 三方の近隣住宅に対して、騒音振 動や粉じん対策が必要	△ 四周の近隣住宅に対して、騒音振 動や粉じん対策が必要 狭い一方通行道路での大型工事 車両の通行が課題	◎ 特になし
学校運営中	○ 三方の近隣住宅に対して、騒音や 砂埃の飛散による対策が必要	△ 四周の近隣住宅に対して、騒音や 砂埃の飛散による対策が必要	◎ 特になし
公共下水道接続状況	○ 接続済み	○ 接続済み	△ 未接続・区域外(要管路施工)
地 将来人口動態や分布を見据えた立地	◎ 人口集中エリア	◎ 人口集中エリア	△ 人口集中エリアから遠い
施 都市マスタープランにおける拠点設定	◎ 中心交流拠点	○ 地域交流拠点	◎ 中心交流拠点
設 交通アクセスの利便 公共バス	○ 11系統	△ 3系統	◎ 2系統 ※現状最寄バス停まで遠い
・ 自動車	◎ 特になし	△ 時間帯により、一方通行で幅員の 狭い道路に隣接している	◎ 特になし
防 津波・洪水・浸水 ハザードマップ	◎ 安全確保海拔20m以上 ※最大浸水想定範囲外	○ 安全確保海拔20m以下 ※最大浸水想定範囲外	◎ 安全確保海拔20m以上 ※最大浸水想定範囲外
観 海からの直線距離/標高	◎ 1.1km/26.5m	○ 0.9km/13.7m	◎ 1.6km/76.5m
土砂災害	○ 一部土砂災害警戒区域 急傾斜地崩壊危険区域対策済み	◎ 対象外	△ 一部土砂災害特別警戒区域 一部土砂災害警戒区域
防災 緊急輸送道路への接道 消防車両の寄付き	◎ 第一次緊急輸送道路 (国道134号線)に接道	△ 第二次緊急輸送道路 (葉山大道)に接道 狭小道路のため、大型車 (消防等)の寄付きが難しい	◎ 接道なし
災害時の更なるリスク対応	○ 更なる避難を要する場合、 葉中跡地まで避難可能	◎ 特になし	◎ 特になし

	南郷中学校区	
	長柄小学校	南郷中学校
学 敷地平場面積 校 () 内は森林を含む総敷地面積	○ 約12,800㎡ (40,102.00㎡)	◎ 約18,900㎡ (28,862.31㎡)
施 中学校区域での立地	○ 南郷中学区域のほぼ中心	◎ 南郷中学区域の端
設 立地	○ 標高が高い	△ 標高が高い
の 周辺環境	○ 山林	△ 山林+南郷公園
観 接道状況 点 (幅員・道路規制等)	○ 法42条1項1号道路に接道 幅員:11m(敷地内:6m)	◎ 法42条1項1号道路に接道 幅員:9.75m
遠足等大型バスの出入り	○ 敷地内での乗り降り可能	◎ 敷地内での乗り降り可能
眺望	◎ 建物内から海・山・名島が見える	○ 建物内から山が見える ※全周山に囲まれている
近隣住民への影響 工事中	◎ 特になし	◎ 特になし
学校運営中	◎ 特になし	◎ 特になし
公共下水道接続状況	△ 未接続・区域外(要管路施工)	△ 未接続・区域外(要管路施工)
地 将来人口動態や分布を見据えた立地	○ 人口集中エリア近傍	△ 人口集中エリアから遠い
施 都市マスタープランにおける拠点設定	○ 地域交流拠点	◎ 緑の交流拠点・地域交流拠点
設 交通アクセスの利便 公共バス	○ 2系統 ※現状最寄バス停まで遠い	◎ 2系統
・ 自動車	△ 特になし	△ 特になし
防 津波・洪水・浸水 ハザードマップ	◎ 安全確保海拔20m以上 ※最大浸水想定範囲外	◎ 安全確保海拔20m以上 ※最大浸水想定範囲外
観 海からの直線距離/標高	◎ 1.1km/50m	◎ 2.2km/64.9m
土砂災害	△ 平場部以外の一部が 土砂災害特別警戒区域と 土砂災害警戒区域	△ 一部土砂災害特別警戒区域 一部土砂災害警戒区域
防災 緊急輸送道路への接道 消防車両の寄付き	○ 第一次緊急輸送道路 (県道311号線)に接道 ※接道部から建物までが長い	◎ 接道なし
災害時の更なるリスク対応	◎ 特になし	◎ 更なる避難を要する場合、 南郷公園まで避難可能

TASK03 児童生徒数の推計

- 第5次総合計画**中位推計**をベースに検討を行う。
- 2025年以降、**推計（中位・低位）と実数との差を注視し**、計画に反映

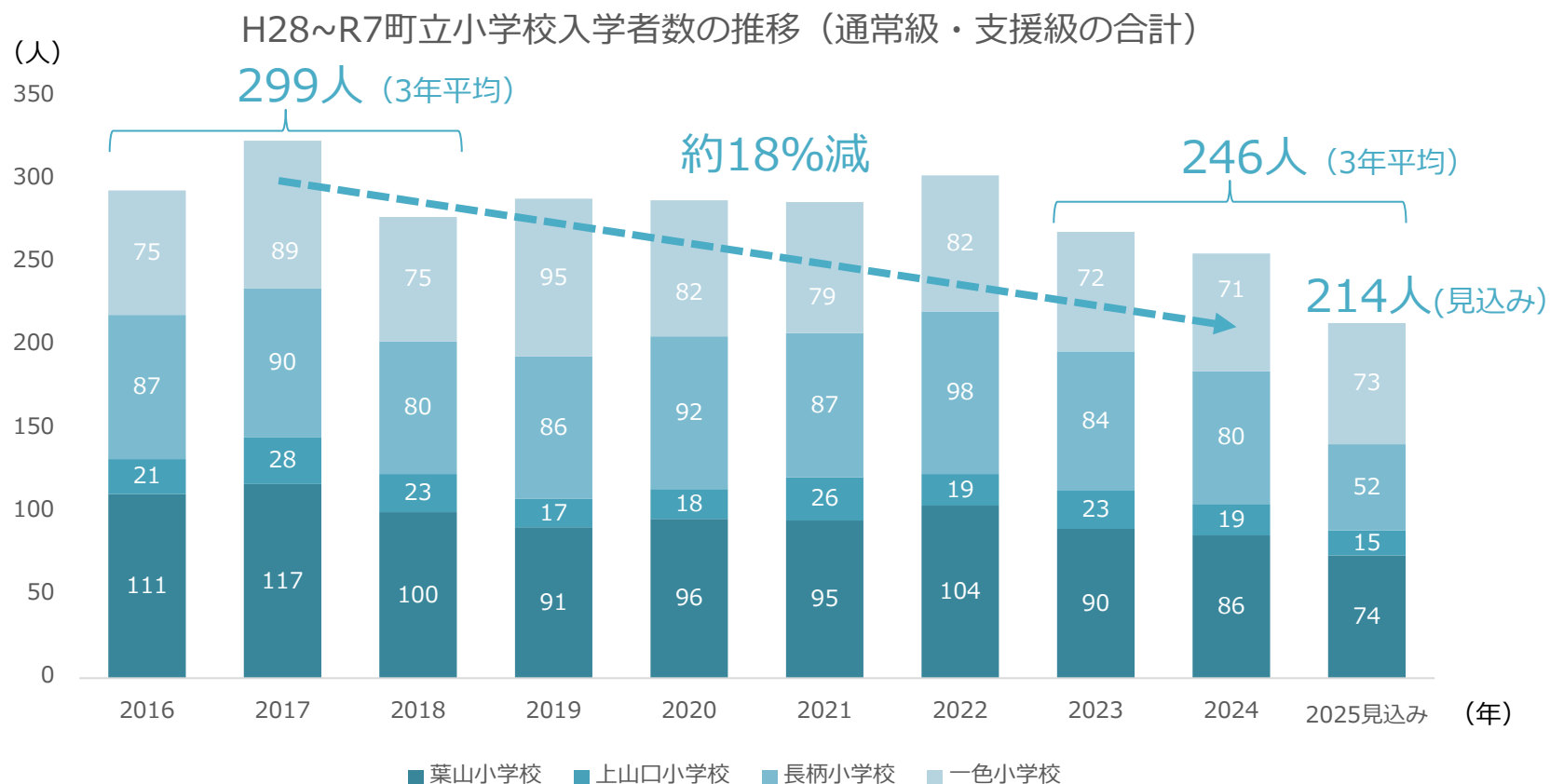


【算定条件概要】

- ※近年の葉山町の人口動態より、児童生徒人口が減少傾向にあるため高位は対象外とし、中位と低位の人口データを参照することとする。
- ※第五次総合計画人口推移(住基)をベースに作成
- ※私学進学率は、令和2～6年の5年分の平均（小学校5.64%、中学校18.64）。

TASK03 児童生徒数の推計

- 直近（R5～7見込み）と10年前（H28～30）の3年間平均を比較すると約18%入学者数が減少している。
- R7年度の入学者見込みは過去10年間で最低の214人となっている。

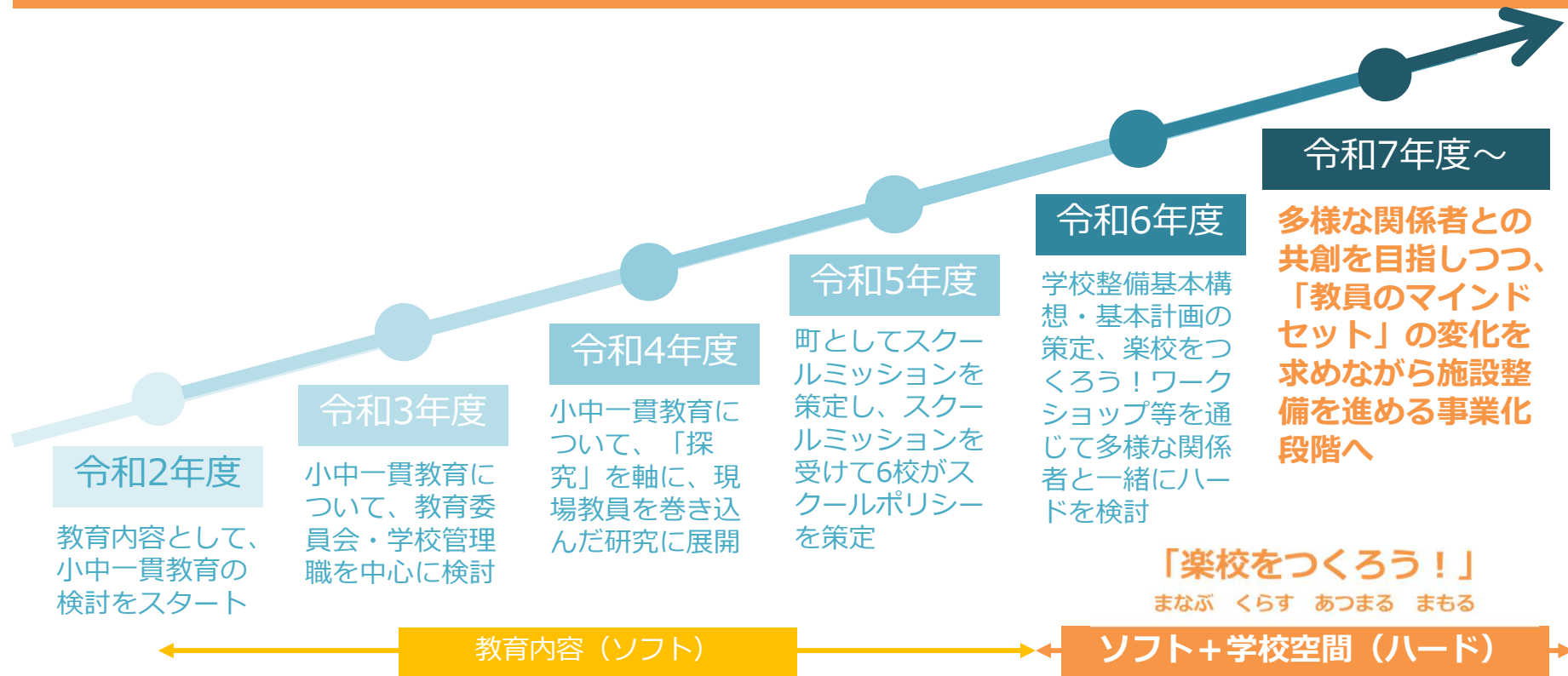


※R7年度は、R7.2.28現在の学校教育課把握の見込み人数
 ※3年平均・減少率は少数点以下を四捨五入

教育内容（ソフト）と学校空間（ハード）

を一体的かつ多様な関係者と検討

～葉山だから実践できる新しい時代の学校整備の形～



TASK04 教育内容の充実を前提とした検討

＜「まなぶ・くらす」を実現する空間＞

9年間の探究・STEAM教育を最大化する柔軟で創造的で居心地のよい「まなぶ・くらす」空間を検討

04 【学び】柔軟で創造的な学習空間を実現する

様々な教科等の教室の有理的な連携・分担による多様な活動の展開



「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について」最終報告
文部科学省（令和4年3月30日）

07 【学び】柔軟で創造的な学習空間を実現する

読書・学習・情報のセンターとなる学校図書館の整備



08 【学び】柔軟で創造的な学習空間を実現する

読書・学習・情報のセンターとなる学校図書館の整備



TASK04 教育内容の充実を前提とした検討

＜「あつまる（共創空間）」を実現する空間＞

学びと子どもたちを中心に、
多様な人がつながっていく
「あつまる」空間を検討

15 【共創】ともに創造する共創空間を実現する

学校と地域が支え合い協働していくための共創空間



地域コミュニティの拠点として、地域や社会の人たちと連携・協働し、ともに創造的な活動ができる共創空間としていく姿

写真：VIVISTOP NITOBE
<https://www.nitobebunka.ac.jp/vivistop/#homepage>

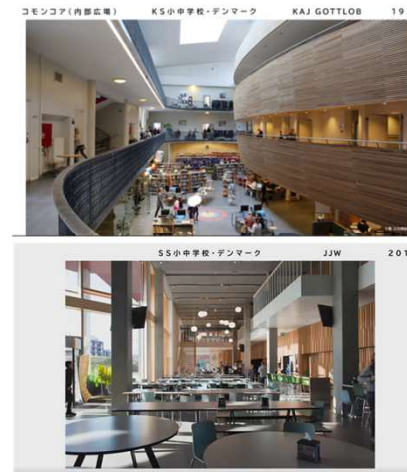
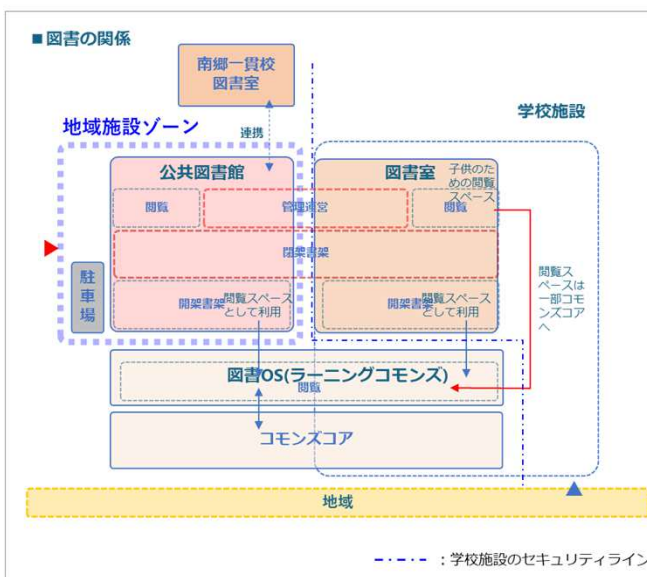
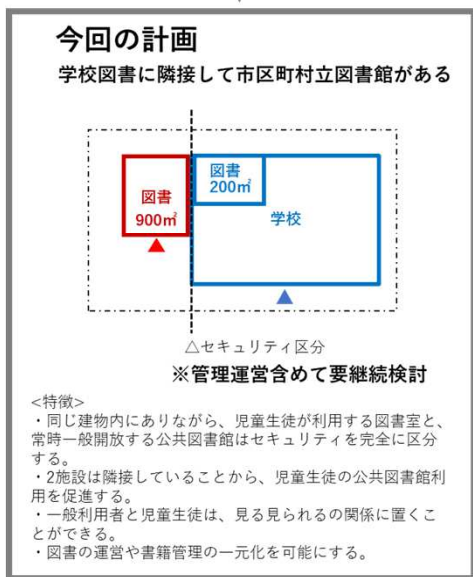
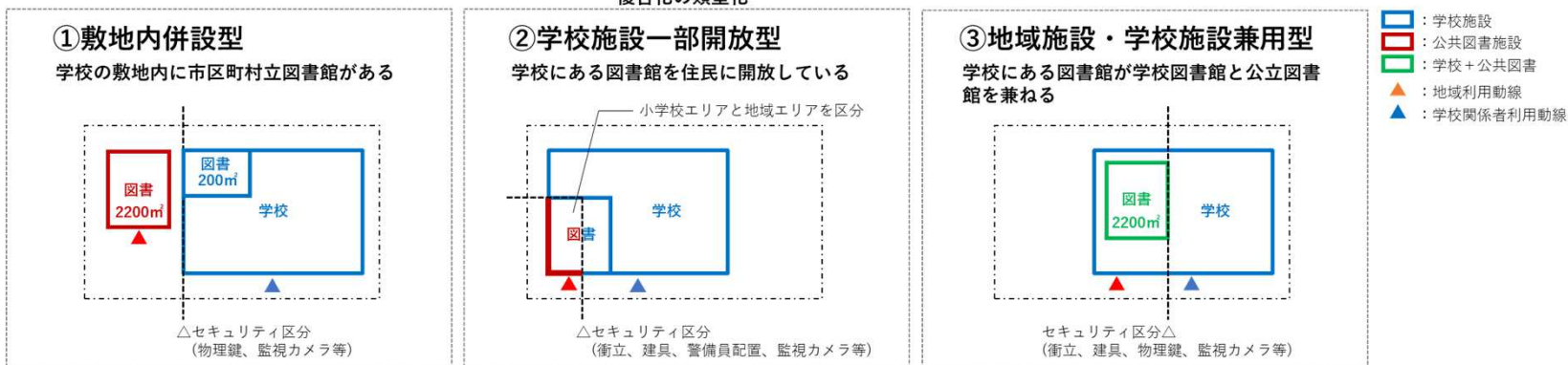
「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について」最終報告
文部科学省（令和4年3月30日）



TASK04 教育内容の充実を前提とした検討

＜「あつまる（複合化・図書館）」を実現する空間＞

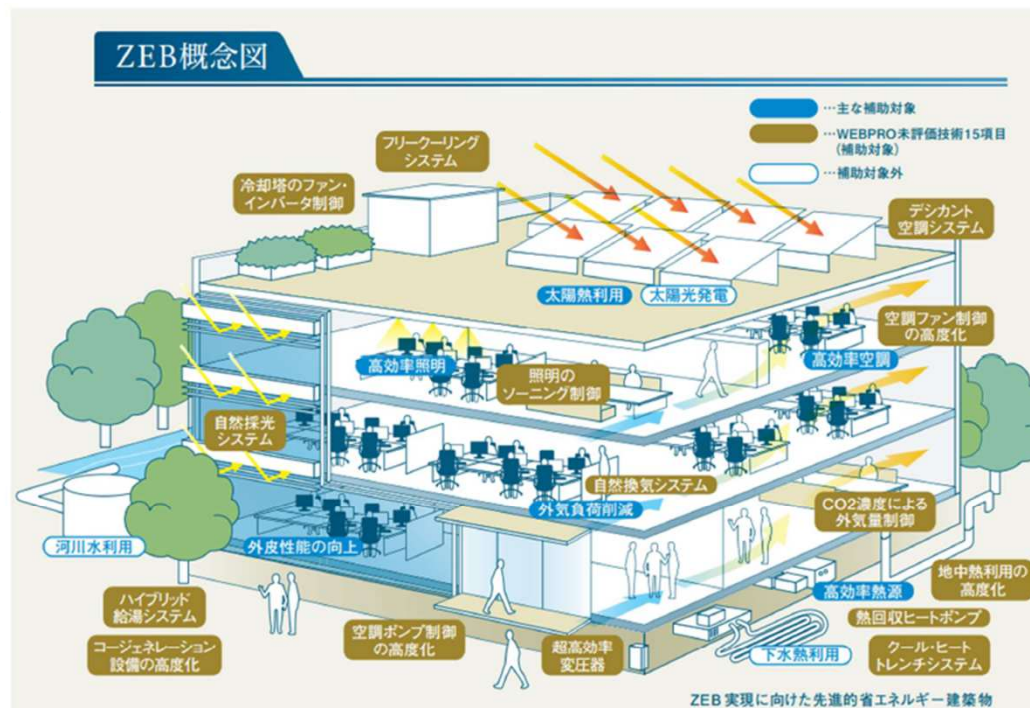
－複合化の類型化－



TASK04 教育内容の充実を前提とした検討

＜「まもる（環境）」を実現する空間＞

ゼロエミッションに向けた社会情勢、技術の向上、コストなどを総合的に検討し、ZEBの実現を見据えた「ZEB Ready」を目指す「まもる」空間を検討。



ZEBの実現・普及に向けた設計ガイドライン・パンフレットについて（環境共創イニシアチブ）より

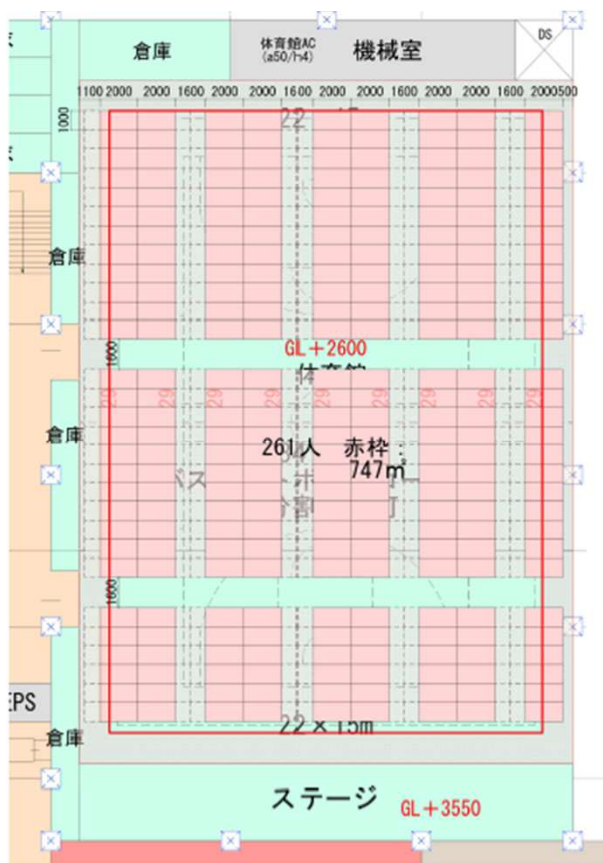
TASK04 教育内容の充実を前提とした検討

＜「まもる（防災）」を実現する空間＞

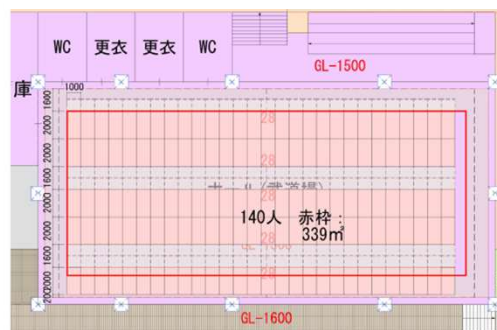
町の想定する避難者数を踏まえて検討

主な避難スペースの想定

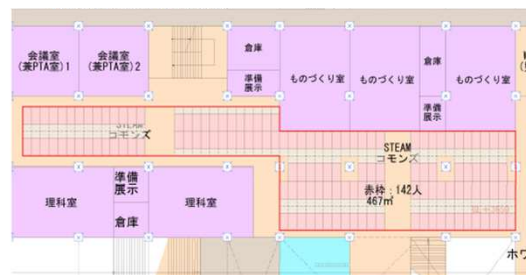
体育館（共通）



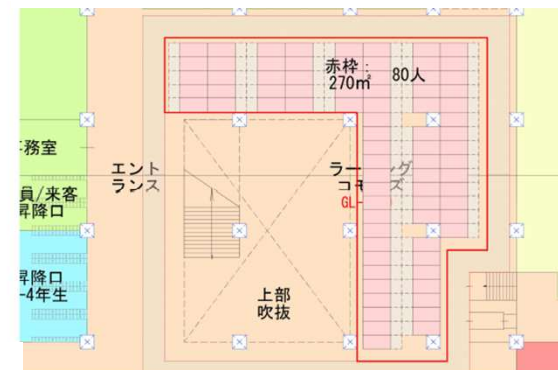
ホール（共通）



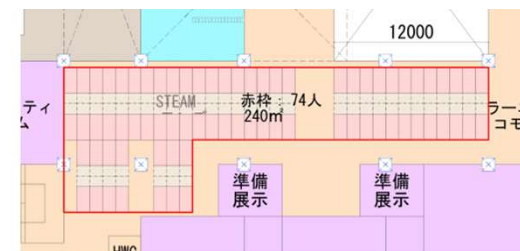
コモンズ（葉山中学校区2階北側）



コモンズ（葉山中学校区1階）



コモンズ（葉山中学校区2階南側）



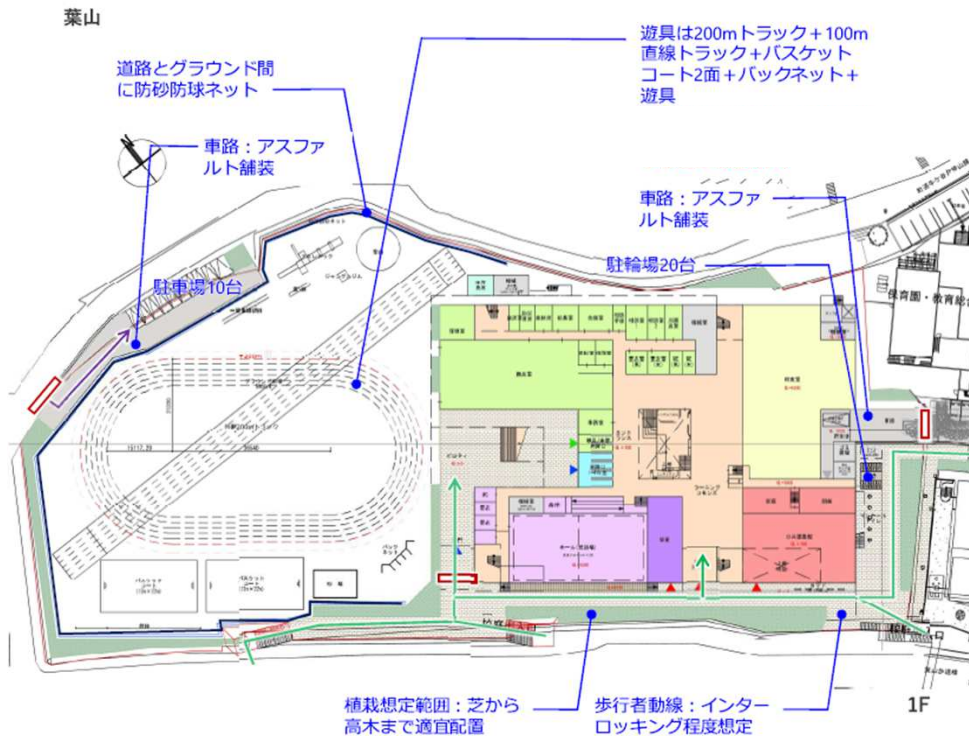
TASK05 配置計画

Point7

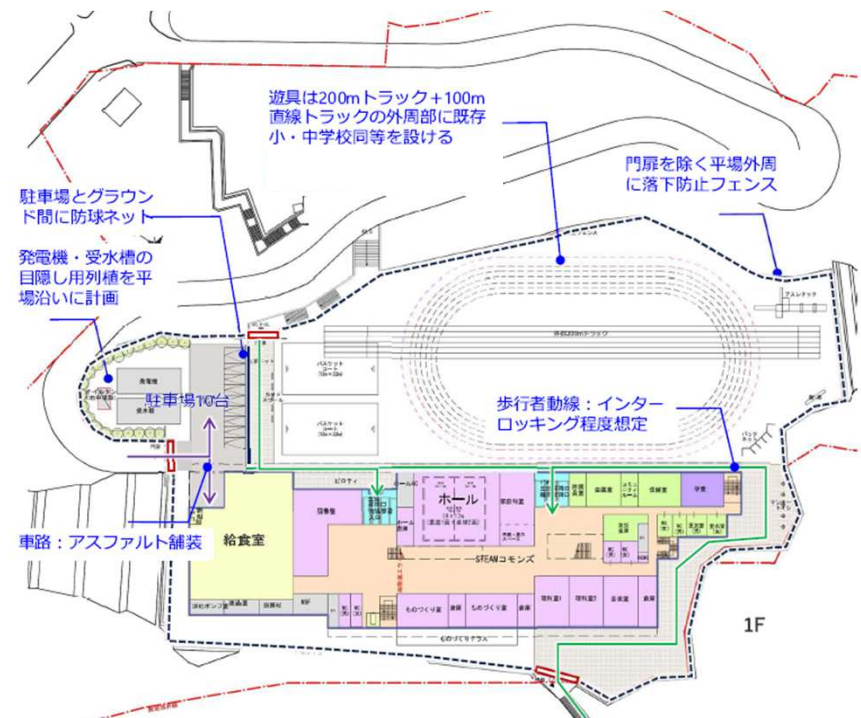
< 2校の配置案 >

➤ 既存校舎を残しながら工事を行う場合の配置とする

葉山中学校区（葉山小学校敷地）



南郷中学校区（長柄小学校敷地）



0 5 10 20 30 40 50 60 70 80 90 100(m)

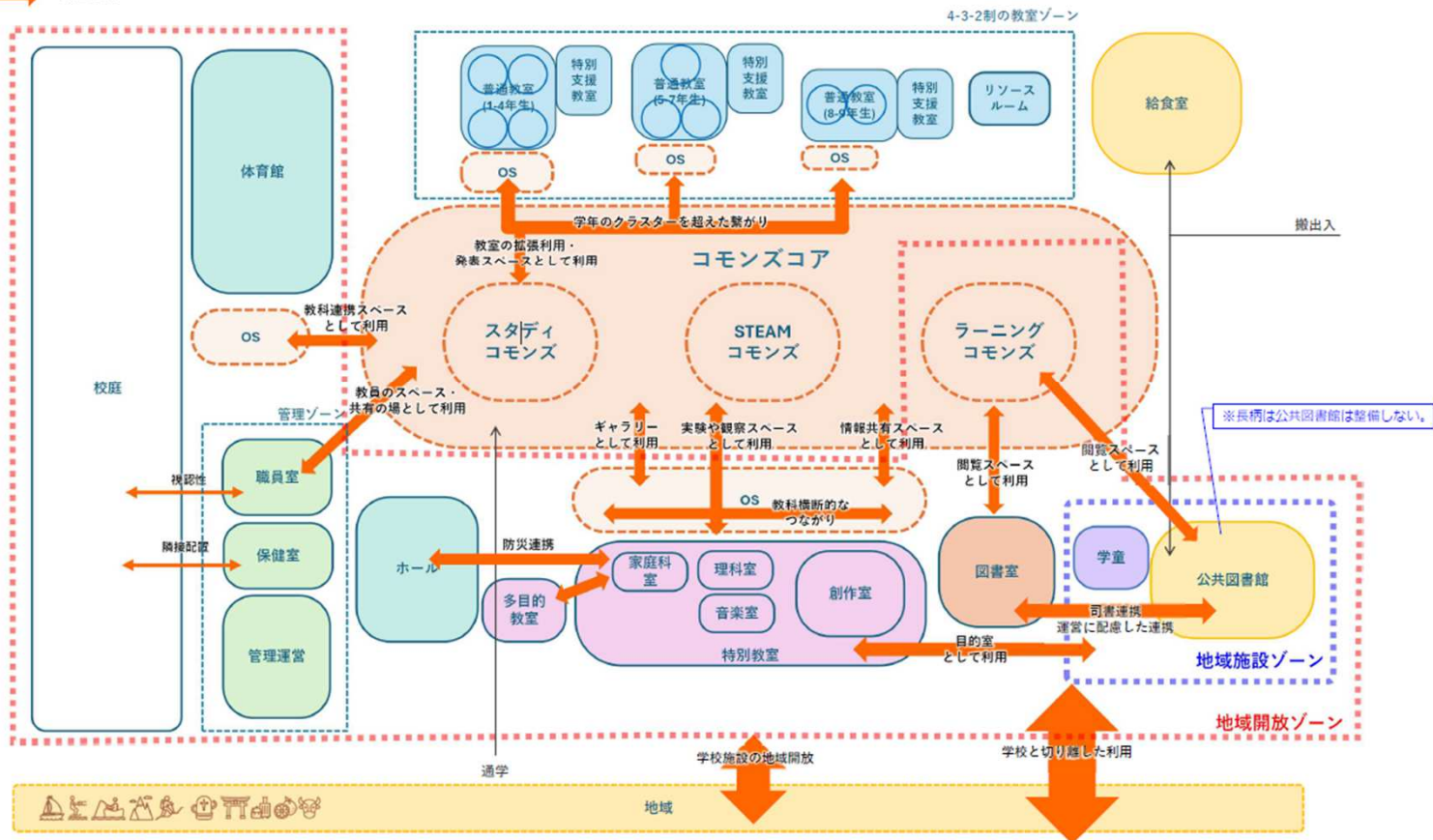
TASK06 平面計画

<機能関係図> コモンズを中心に、人や学びがにじみ出す機能関係

コモンズとは

児童生徒の主体的なグループ学習等を実施するスペースとしての学習空間のこと

●今回想定している機能関係
・各ゾーンや機能関連の案
↔ : 相互連携



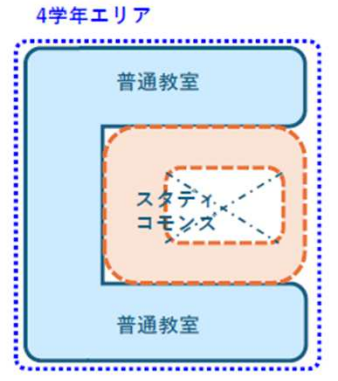
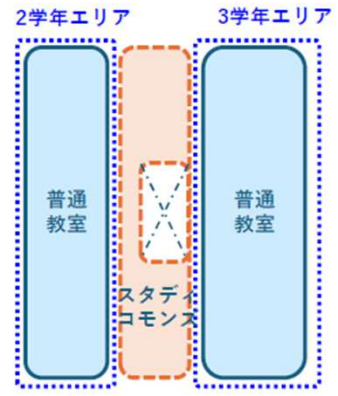
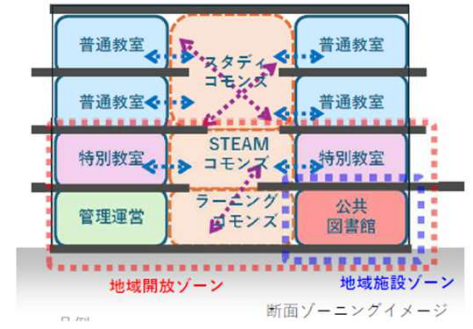
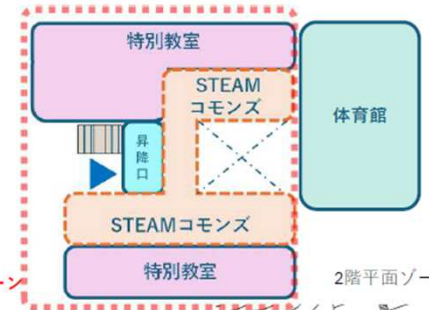
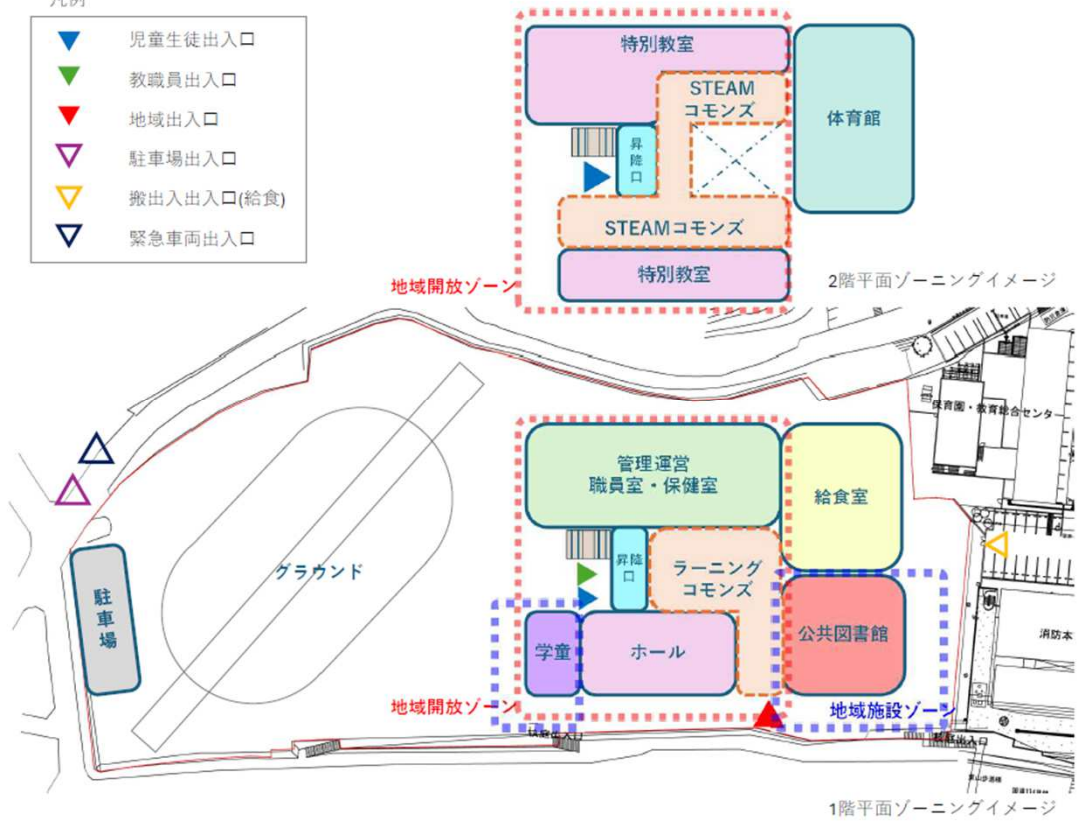
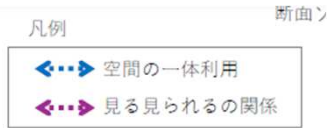
※機能関係図は、計画を造り始める最初の作業の一つで、居室の種類・居室の広さ、部屋同士の関わりなどをグループでまとめ繋ぎ合わせ、表した図

TASK06 平面計画

Point9

<ゾーニング>

9年間の教育効果を最大化するためコモンズを通じた「つながり」を生むゾーニング

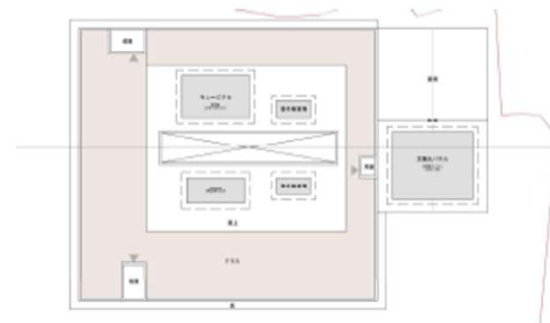


TASK06 平面計画

◀ 葉山中学校区平面図 ▶



2F



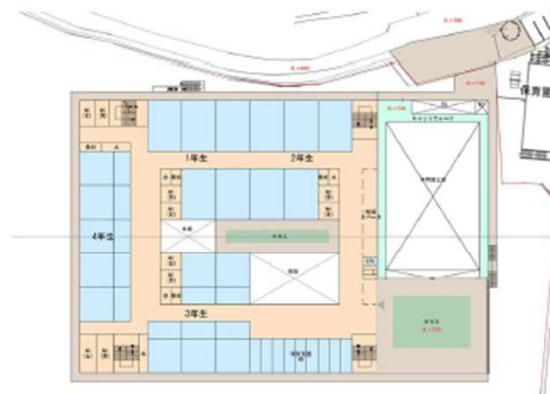
屋根伏



4F



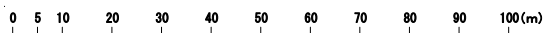
1F



3F

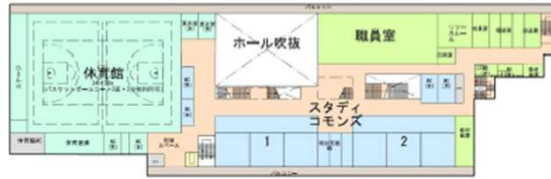
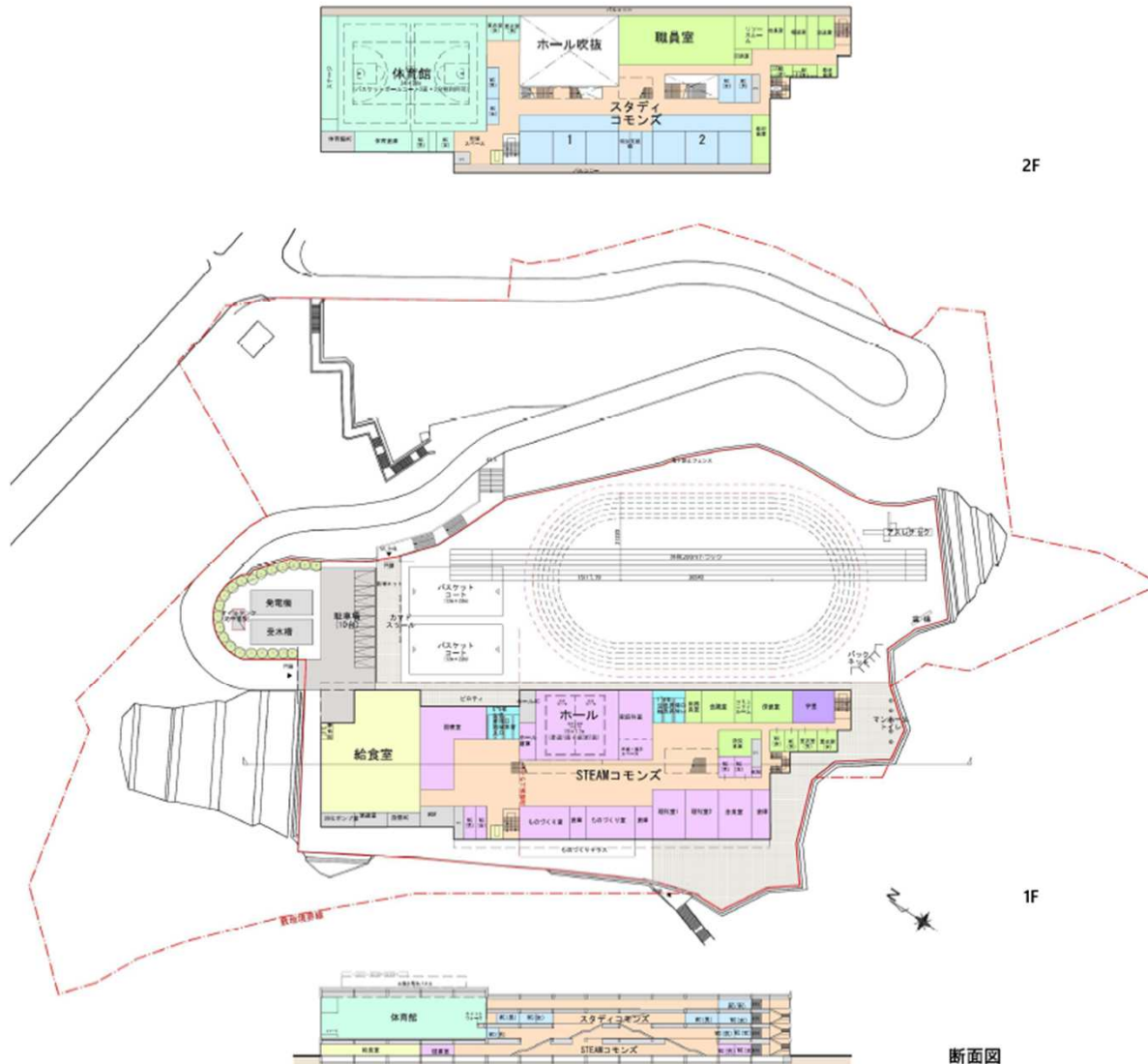
計画概要

構造種別	: RC造
階数	: 地上4階
建築面積	: 約6,600㎡
延床面積	: 約19,000㎡
建蔽率	: 約40%



TASK06 平面計画

◀南郷中学校区平面図▶



2F



RF



4F



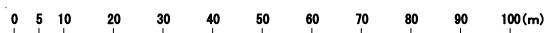
3F



断面図

計画概要

構造種別	: RC造
階数	: 地上4階
建築面積	: 約4,350㎡
延床面積	: 約12,400㎡
建蔽率	: 約15%



TASK06 平面計画

<学校プールについて>

➤ 学校プールについて以下の3パターンで検討

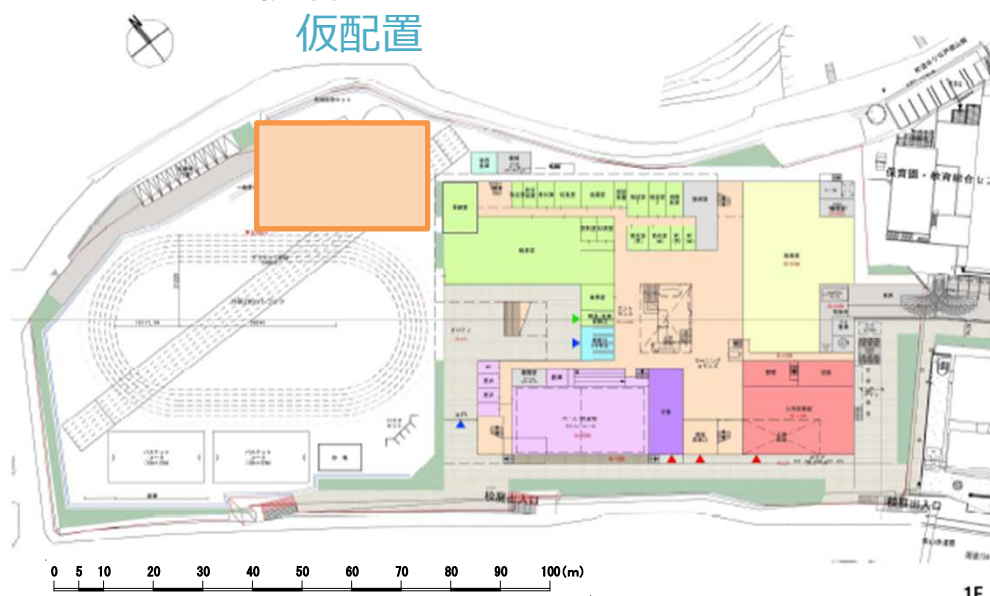
敷地内に新設

中学校プール改修

民間委託

<葉山中学校区>

新設プール
仮配置



<南郷中学校区>

新設プール
仮配置



※仮配置した新設プールは、既存葉山中プールの大きさ約35×28mを想定

TASK07 整備パターン・整備費用

Point10

➤ 2校整備費用は、約293~309億円（葉山中学校区で4パターン、南郷中学校区で1パターンを想定）

中学校区	パターン分類	候補地校児童 使用校舎	仮設	総事業 期間	整備 費用	備考
葉山中学校区	居ながら段階工事	葉山 小学校	なし	111ヶ月 (9年3ヶ月)	約181 億円	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 既存校舎・体育館を整備までの間、使用可 ➤ 軽運動場あり ➤ 工事中既存体育館を利用可 ➤ 敷地内工事であり騒音・振動・粉塵の影響 ➤ 児童数減少を待たずに早期事業着手が可能
			仮設 体育館	91ヶ月 (7年7ヶ月)	約174 億円	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 既存校舎・体育館を整備までの間、使用可 ➤ 工事中仮設体育館のみ（軽運動場なし） ➤ 敷地内工事であり騒音・振動・粉塵の影響 ➤ 児童数減少を待たずに早期事業着手が可能
	更地一体工事	一色 小学校	仮設 校舎	78ヶ月 (6年6ヶ月)	約170 億円	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 葉山小学校と一色小学校の統合が前提 ➤ 既存と同等の施設・運動場を利用可 ➤ 更地一体工事により短期間で工事可 ➤ 工事中の騒音・振動・粉塵の影響なし ➤ 児童数減少を待たずに早期事業着手が可能
			なし		約165 億円	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 葉山小学校と一色小学校の統合が前提 ➤ 既存と同等の施設・運動場を利用可 ➤ 更地一体工事により短期間で工事可 ➤ 工事中の騒音・振動・粉塵の影響なし ➤ 児童数減少を待つ間の建設費高騰リスクあり
学南 校郷 区中	居ながら 段階工事	長柄 小学校	なし	92ヶ月 (7年8ヶ月)	約128 億円	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 既存校舎・体育館を整備の間、使用可 ➤ 軽運動場あり ➤ 敷地内工事であり騒音・振動・粉塵の影響

- 工期は、業者選定・設計・工事を含む。全事業期間、整備費用は、解体・新築・造成・備品を含む。
- 中学校敷地に仮設校舎を建設するパターンもあるが、既存校舎と同等規模の仮設校舎が必要となり、費用が増大するため検討から除外した。

TASK07 整備パターン・整備費用

＜建築費指数による建築物価上昇の状況＞ 学校（RC造）

2020年～2025年の伸び率（総合）：約1.307倍



※1 建築費指数は、建物を建築する際の工事価格の変動を明らかにすることを目的に作成されている“建築工事に関する物価指数”である。物価としての建築費を時点間や地域間で比較することや、建築費の動向を時系列的に観察することが可能となる。

タスクごとのポイントのまとめ

TASK 01

整備方針

- 整備方針の前提
「楽校をつくろう！」
整備方針の4要素
- ・まなぶ
 - ・くらす
 - ・あつまる
 - ・まもる

TASK 02

建設候補地

- 葉山中学校区
→葉山小学校敷地
- 南郷中学校区
→長柄小学校敷地

TASK 03

児童生徒数の推計

第五次葉山町総合計画の中位推計を学校規模の前提条件としつつ、推計と今後の実数の差を注視し、計画に反映

TASK 04

教育内容の充実を前提とした検討

葉山だからできる教育内容（ソフト）と学校空間（ハード）を一体的かつ多様な関係者と検討

TASK 05

配置計画

既存校舎を残しながら工事を行う場合の配置

TASK 06

平面計画

「楽校をつくろう！」及び「まなぶ・くらす・あつまる・まもる」を基本方針に、コモンズを中心に、人や学びがにじみ出す地域とシェアできる空間を検討

TASK 07

整備パターン・整備費用

2校の整備費
→約293～309億円
葉山中学校区4パターン
南郷中学校区1パターン

基本構想

基本計画

